

# 学位論文抄録

持効性注射剤療法とオリジナル心理教育の包括治療による統合失調症の再発予防

(Prevention for relapse in people with schizophrenia using combination treatment with long acting injection (LAI) and original psycho-educational approaches)

趙 岳 人

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻神経精神科学

指導教員

池田 学 教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻神経精神科学

## 学位論文抄録

**【目的】** 統合失調症は、思春期から成年期に好発し、陽性症状および陰性症状を伴う疾患である。また、再発・再燃を繰り返し、進学・就職・結婚等のライフイベントに重大な影響をおよぼす。統合失調症の予後を左右するアドヒアランスの低下と再発の課題は、当事者や家族だけでなく我々治療者にとっても共通の障壁である。現在、一般に行われている抗精神病薬による治療の主要な効果は陽性症状の改善であり、統合失調症の基本症状である陰性症状を抱えたまま慢性期に移行する患者も少なくない。また、病識を得にくい疾患特性や意思・意欲の低下をきたす陰性症状のために、治療継続の動機が阻害され再発につながると考え、今回、統合失調症患者に対して、持効性注射剤 (Long Acting Injection; LAI) 療法と、我々の開発した LAI のための心理教育 COMPASS (COMprehensive Psychoeducational Approach and Scheme Set) とを包括治療として実施し、陰性症状の改善と再発予防効果を検討した。

**【方法】** 国際疾病分類 (International Classification of Diseases ; ICD) 第 10 版に基づき統合失調症と診断された 20 歳から 70 歳までの患者のうち、初発または急性増悪により入院または外来にて LAI 療法単剤治療が導入され、参加同意の得られた 96 例を対象とした。実施施設は、1 大学病院 (藤田保健衛生大学) および 12 精神科病院である。対象患者には、LAI 療法とオリジナル心理教育 COMPASS による包括治療介入を行った。COMPASS では、当事者自身の言葉による「夢や希望」の表明と多職種チームによる目標共有をおこない、患者自身に治療の「動機づけ」を強く促した。LAI 単剤化および COMPASS 介入が完了した時点をベースラインとし、6 ヶ月間における再発 (本研究では、入院もしくは効果が不十分であったことによる脱落と定義) 率および精神症状 (日本語版簡易精神症状評価尺度: Brief Psychiatric Rating Scale; BPRS) ・精神機能 (機能の全体評定: Global Assessment of Functioning; GAF) ・忍容性 (薬原性錐体外路症状評価尺度: Drug-Induced Extrapyramidal Symptoms Scale; DIEPDSS) を評価した。

**【結果】** 期間中に再発した症例は 96 例中 10 例 (10.4%) であり、これは、リスペリドン LAI 国内第Ⅲ相試験におけるリスペリドン LAI 群の再発率 12.2% をわずかに下回る結果であった。また、研究から脱落した患者は理由に関わらず 96 例中 19 例 (19.8%) であった。BPRS の陽性症状は 6 ヶ月後に、BPRS の陰性症状と GAF は 3 ヶ月後と 6 ヶ月後に、それぞれ有意な改善を認めた。DIEPDSS はベースラインからの有意な変化はなかった。

**【考察】** 我々の行った服薬アドヒアランスに関する先行研究 (趙岳人ほか, 2011) の結果では、内服薬を服用中の参加者 50 例中 7 例 (14.0%, 調査期間 6 ヶ月間) が再発により脱落しており、また、リスペリドン持効性注射剤第Ⅲ相試験 (上島ほか, 2009) における、リスペリドン錠を対照薬とした比較では LAI 群の再発率は 12.2% (調査期間 6 ヶ月間) であった。一方、本研究の結果は再発率 10.4% (調査期間 6 ヶ月間) であった。このことから、LAI 療法と COMPASS との包括治療を行うことは、統合失調症の再発予防に効果のあることが示された。また、陰性症状については、治療開始 3 ヶ月後から有意に改善することが確認され、LAI 療法と COMPASS との包括治療は、特に陰性症状に効果が認められると考えられるため、統合失調症の再発防止およびアドヒアランスの向上に効果があると考えられる。なお、本研究の限界は、心理教育をおこなわないコントロール群を設けることができなかった点である。

**【結論】** 統合失調症の予後を左右するアドヒアランスについては LAI 療法が、また、治療継続を困難にする陰性症状については COMPASS が、それぞれ有効であり、それらを包括治療として組み合わせることは有用である。今後の展望としては、あらゆる抗精神病薬に対応できるよう COMPASS を改良し、包括治療の内容を充実させるなどの工夫を重ねて、コントロール群を設けた有効性の再検討をおこないたい。